

令和4年度第4回四街道市子ども・子育て会議 会議録（概要）

日 時 令和5年2月2日（木）13時30分～15時00分  
場 所 四街道市保健センター3階大会議室  
出席委員 伊藤会長、千脇副会長、安部委員、青柳委員、村井委員、利光委員、  
楠岡委員、窪委員、林委員、森委員、棚橋委員、笹原委員、阿部委員  
欠席委員 片山委員、富樫委員  
事務局 山崎健康こども部長、川田健康こども部副参事  
子育て支援課：笠松課長、能勢課長補佐、石川主任主事  
保育課：新田課長、下山課長補佐  
傍聴人 2人

―― 会議次第 ―――

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 部長挨拶
- 4 議題
- 5 答 申
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

―― 議事概要 ―――

○開会

○会長挨拶

○部長挨拶

○会議の公開・非公開の決定、会議録の作成について

伊藤会長 本日は傍聴希望者がいる。本日の議題については、会議の公開により、議事運営に著しい支障が生じるとは認められないため、会議を公開とすることとし、会議資料についても、傍聴人に配布することとしてよろしいか。  
《異議なし》

伊藤会長 会議録の発言者名は、会議の公開に関する規定により明記することとなっているため、本会議においても同様とする。

○議題① 令和5年4月開設予定保育所等の利用定員の設定に係る意見聴取について

伊藤会長 議題①「令和5年4月開設予定保育所等の利用定員の設定に係る意見聴取について」事務局より説明をお願いします。

事務局 《資料1について説明》

伊藤会長 ただいまの説明について何か質問はあるか。  
窪委員 3～5歳児の保育は大変だと思うので、保育士の配置等について工夫をして  
いただきたい。  
伊藤会長 事務局は、ご提案ということで受け止めていただきたい。  
安部委員 緑ヶ丘幼稚園の認定こども園化は、移転をするのか、既存の施設を使って幼  
保一体型でやっていくのか。  
事務局 2歳はプレ保育を受けていた子どもで、保育時間を少し長くして認定こども  
園として受け入れる。3歳以上は教育時間より長い時間を保育時間として預  
かるクラスを設定する。場所は変わらず、一部に保育機能を持つようになる。  
安部委員 文化センターの隣にもできるということか。  
事務局 既存施設の活用のため、新たにつくることはない。  
利光委員 緑ヶ丘幼稚園以外の新設2園に園庭はあるのか。  
事務局 認可の必要条件となっているため、ある。

#### ○議題② 四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～の中間年の見直しについて

伊藤会長 議題②「四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～の中  
間年の見直しについて」事務局より説明をお願いします。  
事務局 説明の前に、事前に青柳委員からいただいていた質問に対し回答する。資料  
3について、6～8ページの各区分では、実績値の増加に合わせて見直し後  
の量の見込みと確保の内容を増加させているのに対し、5ページの①教育(認  
定こども園・幼稚園)では、実績値の減少に合わせて見直し後の量の見込み  
は減少させているのに、見直し後の確保の内容は増加させているのはなぜか  
という質問をいただいている。回答としては、計画策定当時の見込みほど認  
定こども園への移行がされなかったためである。幼稚園が認定こども園に移  
行され、定員設定が変更されることを見込んで確保の内容を算出していたが、  
実際には令和2年度以降に認定こども園化したのは2園であり、令和5年4  
月時点での定員数が2,076人となったため、計画値の2,046人から修正した。  
事務局 《資料2、3、4について説明》  
伊藤会長 ただいまの説明について何か質問はあるか。  
《意見なし》  
伊藤会長 それでは、四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～の  
中間年の見直しについて事務局案を承認し、資料4のとおり答申してよろし  
いか。  
《異議なし》  
伊藤会長 それでは、事務局案のとおり承認する。

#### ○答申

会議内において伊藤会長から鈴木市長宛てに四街道市こどもプラン～第2期  
子ども・子育て支援事業計画～について答申を実施。

## ○その他

- 伊藤会長  
事務局 事務局より何かあるか。  
今後の会議の開催予定について説明する。本日で今年度の会議は最後となる。来年度は2回の開催で、第1回の会議は令和5年8月上旬ごろを予定している。今後の審議事項の発生や審議状況、新型コロナウイルス感染症の影響次第で変更となる場合もある。開催の1ヵ月前には皆様に通知をお送りする。
- 伊藤会長  
笹原委員  
事務局 最後に全体を通して何かあるか。  
性別・1歳階級別コーホート変化率法について教えていただきたい。  
令和2年度の0歳は令和3年度の1歳、令和4年度の2歳と1歳ずつずれていくが、その過去の人口の変動などから求める変化率を使って算出する方法である。
- 笹原委員  
事務局 変化率とは、特別な数値を使っているのかと思ったが、そうではないのか。  
コーホート変化率法とは人口推計をするときの手法の一つ。例えば1歳から2歳になったときに1.1%人口が増加しているなどの増減率を年度ごとに出し、その3か年などの平均を変化率とする。令和5年度の人口を推計するとしたら、令和4年度の人口にその変化率をかける。大きなスパンで人口推計をするときは国勢調査の人口を用いるが、5年スパンくらいの時は国勢調査では古いデータになってしまうため住民基本台帳人口を用いている。
- 阿部委員  
事務局 保育園が増えているということは、四街道市に子どもが増えている、働きたい保護者が増えているということなので、この子どもたちがいずれ小学生になってこどもルームを利用するようになることを考えると、ルームの新設はありがたいと思う。子どもたちが増えれば支援員も必要になってくる。運営が民間になってWEBでも求人を出すようになったので応募者が増えると思っていたが、なかなか増えない。市がこどもルームの利用定員を増やすのなら、それを支える支援員の確保も市が責任をもって行っていただきたい。採用するなら条件をよくしていかないと応募が来ない。
- 事務局 支援員の確保については課題であると認識している。国の制度によって処遇改善を行ったり、株式会社になって以前と比べれば給与が改善されたりはしている。支援員の処遇改善については今後も事業者を交えて話し合っていく。
- 棚橋委員  
事務局 こどもルームの定員が令和7年度に50人増えるように見直されていることについて。令和3年3月の議会で、四街道小学校の第3ルームは学校の空き教室を使っており、きちんとしたルームのかたちを、ということで議会を通ったと聞いた。厚生労働省でも待機児童を減らすために空き教室を使うよう言っているが、そこにいる子どもたちにとってはトイレが遠いなどの不便さもあるので、子どもたちが過ごす場を考えていただきたい。  
また、定員はどのように増えるのか。併せて、四街道小学校第3ルームの今後の予定について教えていただきたい。
- 事務局 四街道小学校のやまルームは教室を活用している。空き教室を使ってこどもルームを運用しているのは、やまルーム含め2ルーム。四街道市は教室を活

用したこどもルームは非常に少ないが、他市では実績が多々ある。トイレは多少歩くところにあるが、他市と比べて遜色ない運用はできている。

こどもルームは学校単位での推計をして、利用者の利用率、学校地区ごとの特色を踏まえて、これ以上はこのままの定員では運営できないとなったときに整備する。そのため、令和7年度までは全体の傾向として利用者が年々増えていることから、50人程度定員の増加が必要となると見込んでいるが、具体的にどこの学校か特定はしていない。四街道小学校に限らず、児童が増えている、児童数は変わらなくても利用希望が増えているなどの状況があれば整備していく。

棚橋委員 四街道小学校を考慮しての定員増加と思ったがそうではないということか。他市ではこどもルームと放課後子ども教室が一緒になっている事例があるが、検討しているか。

事務局 中間見直しについては、四街道小学校に限定したものではない。放課後子ども教室は所管が社会教育課になるが、今年度は2団体が実施している。こどもルームは学校のある日及び夏休み期間中は必ず開催しているが、放課後子ども教室はそれほどの頻度では開催していない。何か連携ができないかと担当者間で検討をしたことがあったが、事業規模が異なるので難しく、実施には至っていない。今後も共働きの世帯が子どもの預け先に困ることのないよう、こどもルームの整備を進めていきたい。

千脇副会長 保育所やこどもルームが増えることは、働く親にとっては大変助かることだと思うが、指導者不足、場所不足、規模不足で追いついていない。長い時間を保育所やこどもルームにいただけではない考え方、希望があるからと言って増やしていくのではない考え方に変える必要がある。前回、家庭で子育てをしている人に給付金を出してはどうかと提案したところ、難しいとの回答をいただいた。先日、テレビで議員経験のある方たちが議論をしていて、そういう議論が始まってもいいのではないかと、自分と同じ意見を持っていた。四街道市が子育てを掲げていくのであれば、みんな違う考え方を出していくことを提案する。

伊藤会長 不足しているから保育所やこどもルームをつくるのではなく、子育て全体の在り方を考えていかなければいけないというご提案として、事務局は受け止めていただきたい。

利光委員 保育士不足は以前から問題だったが、今年は特に不足している。保育科の学生が少ないためと、保育所が増えればひとりの学生に対してたくさんの保育所が声をかけるためである。他市から奨学金を借りているため四街道市が地元であっても選ばない。四街道市に勤めていても、ひとり暮らしをしたいために給与のいい市や補助金が出る市に移ってしまう。  
もう保育所をつくらなくてもいいのではないか。待機児童を見ても、育休を伸ばすために人気の保育所を第一希望にして落選するようにしている保護者もいるので、中身をしっかりと考えてほしい。

- 事務局 保育士不足については、何かできないかとは考えている。千葉県が1万円出している住宅補助に市が持ち出しの6千円を含む1万6千円を上乗せし、合計2万6千円を補助している。これは佐倉市と同じレベルの補助。これ以上は市全体の財力からして困難である。アパートであれば、国の補助事業で家賃に対して5万8千円を補助する宿舍借り上げ事業があり、四街道市でも取り組んでいる。採用から7～8年までの保育士に補助する制度であり、近隣の佐倉市ではやっていない。財源が限られているためすべてはできないが、保育士の確保に向けた施策はもう少し拡大できないか考えている。
- 施設の開設については、まだ新年度の保育所入所調整が済んでいないが、保育所の整備がもう少し必要と考えている。休暇を延長するためのものと思われる申請の数を取り除いたうえで、本当に保育が必要な保護者に対して保育所の定員を確保できるようにしなければならないという観点からすると、もう少し整備をしないと待機児童が出かねない。4月にならないとわからないが、最終的な状況を確認したうえで、作りすぎにならない程度の施設の整備、幼稚園のPRをバランスよくやっていきたい。
- 利光委員 採用が施設任せというのは厳しい。自分の保育所では、事務員であっても保育ができるように子育て支援員の資格を取ってもらっている。市で募集をかけてもらうことはできないか。
- 棚橋委員 学童保育の他の市の募集を見ると、企業が入っていても、市のホームページに支援員募集を掲載しているところはある。
- 事務局 各事業所の保育士という従業員を市で契約までもっていくのは難しい。採用とは、最終的には事業所と個人が雇用契約を結ぶものである。施設の職員募集を市のホームページに掲載したり、合同説明会の会場として土日に市の会議室を提供したりといったことを各幼稚園や保育所、協会から要望いただければ検討の余地はある。
- 窪委員 子どもを安心して預けられますよと言えるように中身を充実させてほしい。そのためには保育士が足りない。定員が増えて一番困るのはそこで働いている保育士。子どもたちが今育つところがきちんと運営されているのか。例えば、1・2歳児を混合で見ているようなところ。1歳児はあっちこっちに行ってみたい年齢で、2歳児は少し知識がついてきていろいろできるようになる年齢。2歳児が集中したいのに1歳児がまわりでうるさくしていると集中できない。それを受け持つ保育士は本当に大変で、倍以上のエネルギーが必要ということは目に見えてわかる。そのような環境で子どもが本当にすくすくと育つのかということが本当に悲しい。民間保育園の保育士に対しても研修をできるといい。育ちに難しさがある子どもも一緒に生きていくという多様性の面も踏まえてやっていかなければならない。保護者が安心して働けて、豊かになれるよう育成していくシステム作りができればいいと思う。
- 伊藤会長 保護者が働く場もそうだが、子どもたちが健全に育つということが大きな目的であると思うので、建物を建てるだけでなく、中身のことも考えていか

なければならぬというご意見ということで、事務局は受け止めていただきたい。

楠岡委員 保育所を利用する人が増えているのは、預かり時間の問題が大きいのではないかと思う。大体の幼稚園は朝8時から夜6時まで預かりをしている。7時までの預かりを必要としている人がどれくらいいるのか、その人数が少なければ幼稚園の預かり保育でもまかなえるのではないか。新設される保育園の3～5歳の定員が多いが、6時くらいまでの就労の人が多いのであれば幼稚園のほうに話をふってほしい。

事務局 保育園利用者のうち7時まで預かりが必要な人数については把握していない。新規で申し込む保護者全員に保育所の手引きを配り、その中で幼稚園についても平等に案内をしている。幼稚園が6時まで、園によっては7時まで預かれるということも情報提供している。

笹原委員 四街道市の魅力は何があるのか。魅力があれば「子どもを大事にしてくれるからいいよ」などと口伝えに広まって、どんどん流入者が増えていく。待機児童ゼロを目指していろいろな議論をしているが、四街道市の未来を考えたときに、「四街道市はこんなにいいところだよ」と、子どもの口から出てくるだろうか。子どもの権利条約を日本は批准しており、その中で、意思の表明、自分の考えを周りに伝える権利が保障されている。子どもたちに四街道市の魅力を考えてもらうか作ってもらうのはどうか。もしくは、気候変動や災害など、そういったものに対処していくにはどうするか、教えるのではなく、子どもたちに考えてもらうのはどうか。子どもたちが考えればまちは変わらと思う。

伊藤会長 ご意見、ご提案ということで事務局は受け止めていただきたい。

#### ○閉会

伊藤会長 以上で本日の子ども・子育て会議を終了する。